



みぬま☆広場

みぬま学会の報告

第14回みぬま学会を1月25、27、30日に開きました。昨年に続き、ポスター形式による発表で、常勤職員のほぼ全員の49演題が発表されました。3日間で100人近くの参加がありました。1年間の研究をまとめた発表や、多職種と連携して、チームケアで、大きな成果を上げた取り組みなど、力強い発表が続きました。多くの参加者から、「昨年よりも、発表内容が発展してきている」「勉強になる事が多かった。」と感想

利用者視点からみぬまでの療養生活を振り返って見えてきたもの

看護師・鈴木宏子 さん



ベッド上安静になった時、人の手を借りないと生活出来ない。しかし介護を受ける側は排泄以外我慢してしまい、細やかな気遣いの積み重ねが介護の質を上げるのだと思う。私も忙しさにかまけて職員目線になっていた所があった。みぬまの介護職員はさすがに頻コールの対応もやさしく利用者のペースに合わせて対応していた。もちろん課題もあるが増床しても期待が出来る。

【他職員からの感想】
今回の事で、自分が利用者様だったら・・・と私自身も考えるようになりました。発表を聴いて「利用者視点」の難しさを改めて感じました。
・貴重な体験談を聴く事で、利用者様の気持ちを考える場にもなり、大変勉強になりました。

職員が健康であり続ける為に

2階介護職・高橋 勇樹さん

ほとんどの職員が多少でも「身体を変えたい」と感じているが、どのように行ったら良いのかが分からない、正しい方法で行えない職員が多いと考えた。今回の取り組みを継続して、更に習慣化出来るようになると、職員が効果的な運動療法・食事療法の知識と技術が向上し、利用者に対しても実践できると思った。

【他職員からの感想】
職員の健康についての発表は初めてだと思い、新鮮でした。職員が健康でなければ、良い仕事ができないので大事だと思いました。
・健康は、永遠のテーマであり、働く職員のみならず、利用者様の「健康」の部分を支援していけるのか、利用者様と共に、全員で取り組めると良いですね。



事務が実践!! パーソンセンタード・ケアの視点で行なう 認知症ケア～2016～

事務・長谷川真幸さん



療養棟では利用者の生活全般を見ており、良い面、課題となる面の両方に関わっている。一方、事務職員は利用者の一部分しか見えていないため、固定観念を持たずに利用者と接することができるメリットがあると考えます。

【他職員からの感想】
今まで、事務の方が事例検討するのを見た事がない為、介護の視点を入れながら、取り組みされた事に対して、嬉しく思いました。固定概念を持たないからこそ、出来た事だし、固定概念を持たない事も一つの武器だと思いました。

自信と確信にあふれた自分たちの姿を利用者さんや家族はもちろん、地域や支えてくださっているすべての人たちへもっと知らせたいこう。

神谷先生からの好評 第14回みぬま学会ご苦労さまでした

三日間にわたり、日頃の思いや実践を語りあってきました。
今回の演題や話題は、日頃の自分たちの「思い」や利用者さんと家族への「寄り添い」とともに介護をやっていく仲間のへの温かいメッセージに溢れていました。
忙しい中でもこんなにも多くの気づきと心を伝えていこうという気持ちが汲みとれる学会に成長できていると思いました。
まだまだ改善していくべき発表への工夫と背景の分析等が求められるものもありましたが、毎回確実に成長している姿を確認できます。
発表された49演題が利用者さんやご家族の意見・考えを自分たちのものとして捉え、極めて真摯に相対していました。このことで、経験を踏まえてのカンファレンスの充実、気づいた中身の検討と背景への推敲、自分たちのしてきたことやこれからの希望・課題が見え始めていました。
「今後取り組みたいこと」や自己研鑽、より高い技術獲得に向けての確実な一歩が踏みだされていると思います。
そして、自信と確信にあふれた自分たちの姿を利用者さんや家族はもちろん、地域や支えてくださっているすべての人たちへもっと知らせていくことがより大事になってきていると思います。新しい施設の展開に合わせて今まで以上に地域との強固な連携が求められていきます。
医療機関や介護にかかわるすべての人たちと胸襟を開いての分かり合いを基に今後の自分たちの姿を探求していきましょう。力を合わせたとき限りない可能性が出てくると思います。
また次回学会もキャリアアップしたお互いの姿を確かめ合ひましょう。

2017/03 神谷 稔



みぬま☆広場

2月は節分行事食とバレンタインおやつを提供しました

2月3日は節分の日行事食でした。

主菜のかぶら蒸しは他部門スタッフと協議を重ね、

魚を軟らかく調理することで、ほぼ全ての食形態の方に

形のままお出しすることが出来ました。

なす田楽も普段より大きめのカットにして素揚げすることでコクを出しています。

おやつは紫芋ようかん。

梅型に抜いたゼリーをあしらっています。



「季節の変わり目に邪気をはらって幸多き年にする」という節分行事。

現在では主に立春の前日を指すようになっていきます。

2月14日はバレンタインのおやつとして黒ごまチョコプリンを提供しました。

甘さ控えめに黒ごま香る和のチョコです。



日本では主に「女性が男性にチョコを贈る日」として定着していますが、もともとはお世話になった人や、大切な人に贈り物を贈る日だそうです。

大切な利用者様がおいしいスイーツでハッピーな気持ちになれるよう、気持ちを込めて調理しました。

食養部門